

3

189

東 京 國 書 館

一 八 九	七	三		
冊	號	架	函	類

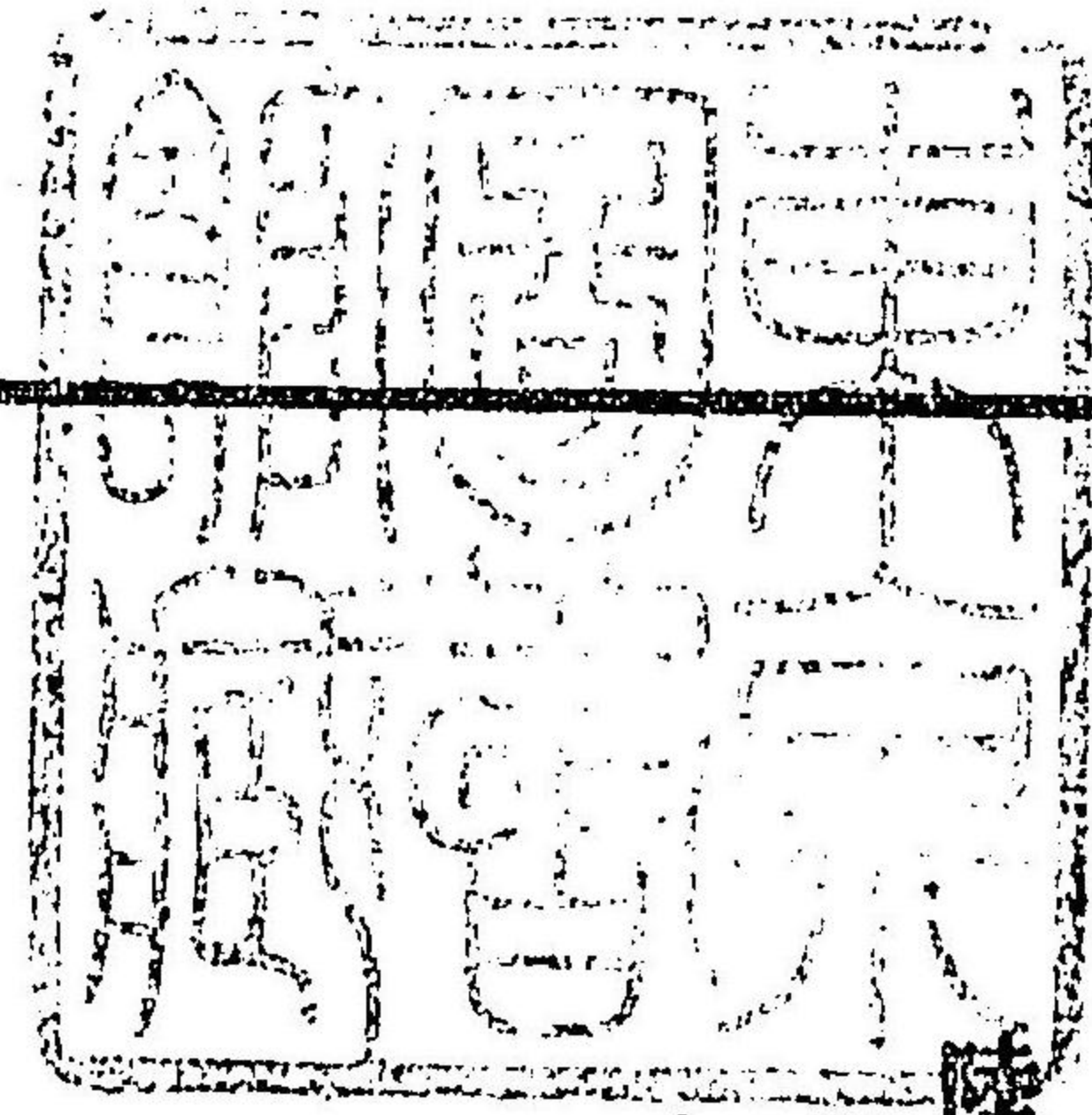
陸軍士官學校編纂  
兵要地誌

大日本之部  
陸前

卷之三十一



No 900



兵要地誌 大日本之部 卷之三十一 目錄

陸前國誌

總論

山論

主脈

北境岐脈

南境岐脈

沿海脈

水論

瀧城ノ區劃

北上河及鳴瀬川ノ瀧城山脈沿海出脈ノ諸

川ノ海小瀧城ノ諸

一

二

二

五

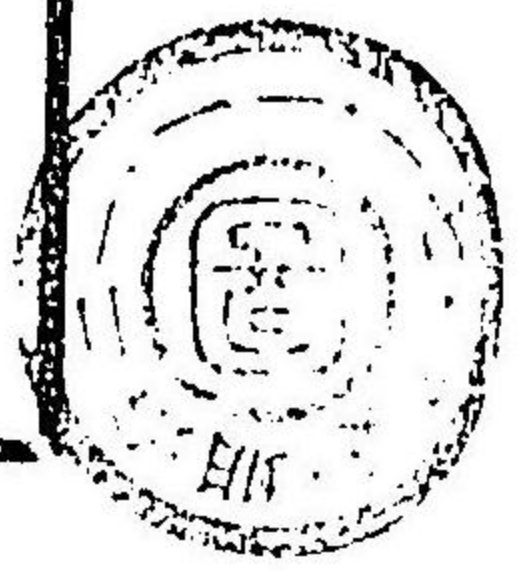
六

七

九

丁

陸前國誌 日本部 陸前國誌 第一



陸軍士官學校編纂

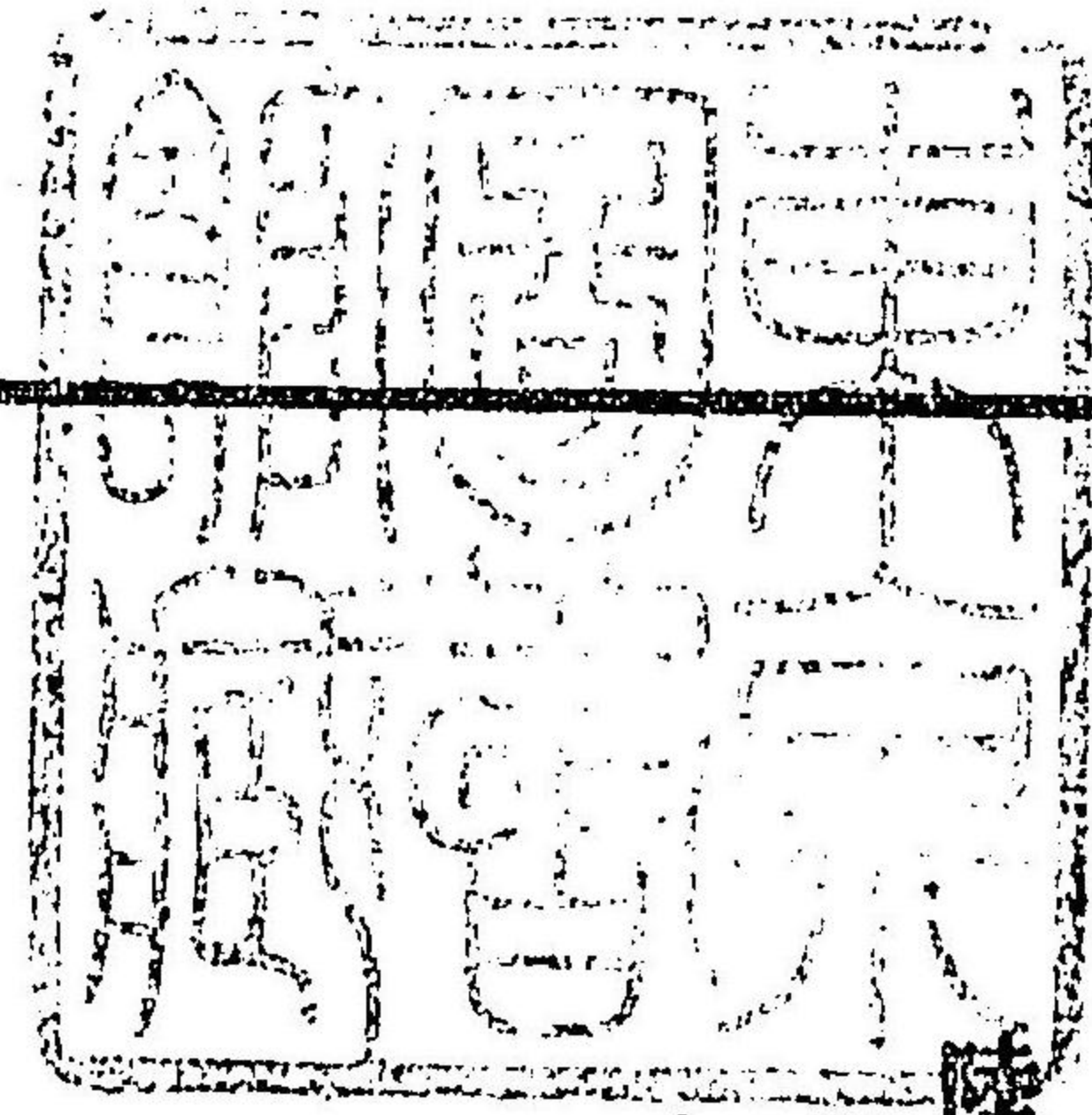
# 兵要地誌

大日本之部

内外兵事新聞局 藏



No 900



兵要地誌 大日本之部 卷之三十一 目錄

陸前國誌

總論  
山論

主脈

北境岐脈

南境岐脈

沿海脈

水論

瀧城ノ區劃

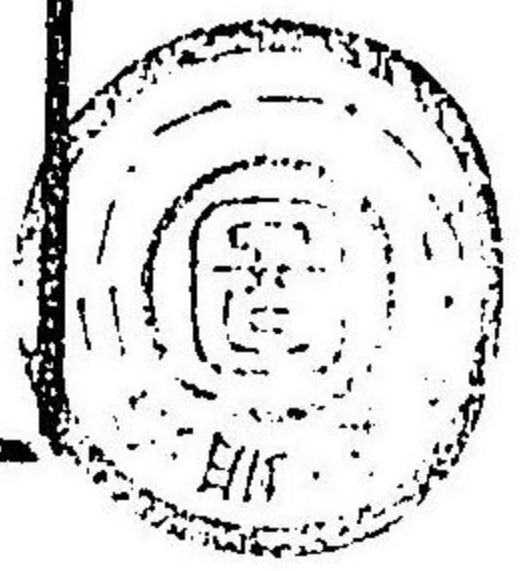
北上河及鳴瀬川ノ瀧城山脈  
川ノ海小瀧注ノ諸  
瀧城ノ諸

日本部

陸前國誌

一

九	七	六	五	二	二	一
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁



陸軍士官學校編纂

# 兵要地誌

大日本之部

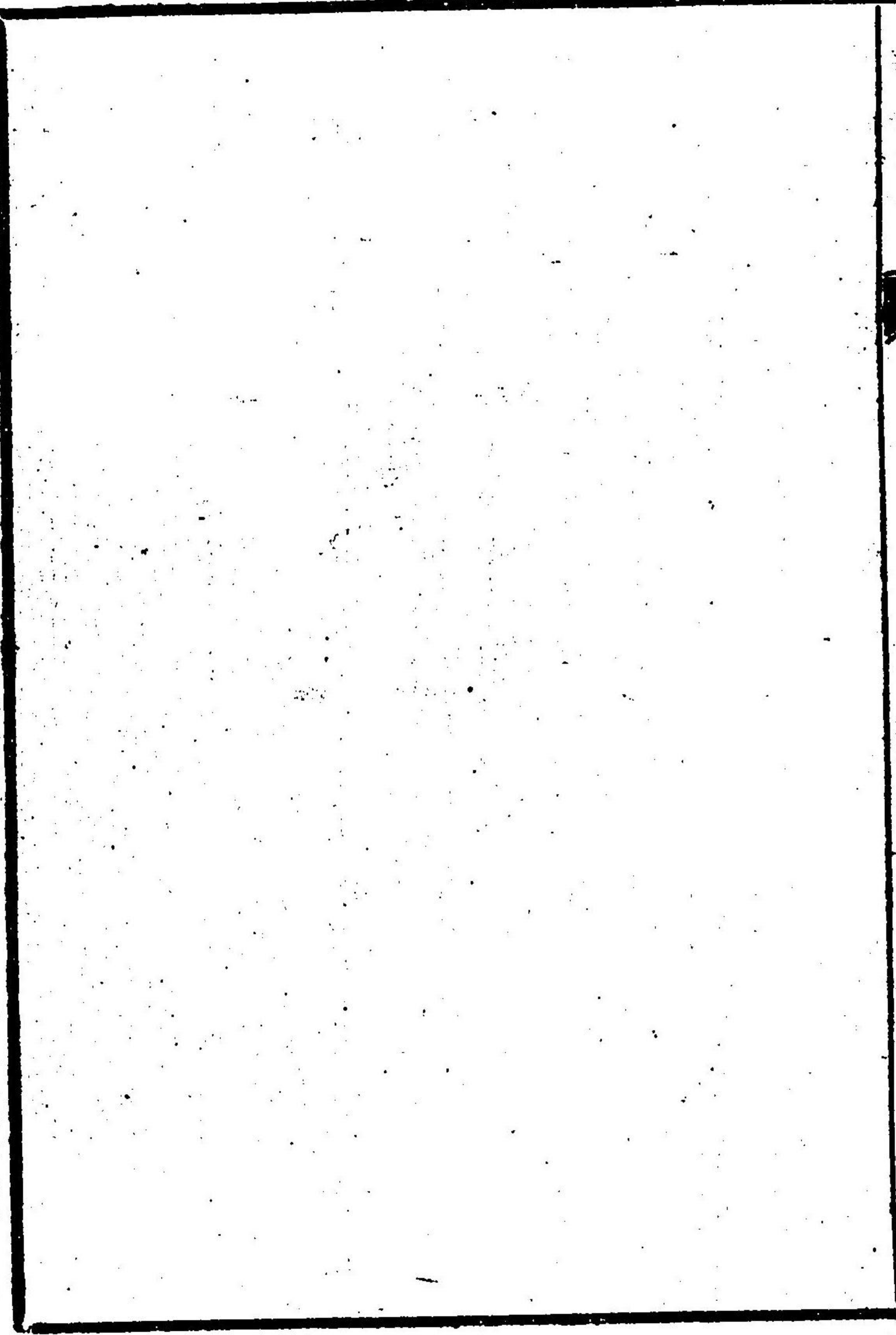
内外兵事新聞局 藏



地勢總括	九丁
北上河ノ水路	九丁
左朝流	十二丁
右朝流	十二丁
鳴瀬川ノ水路	十五丁
鳴瀬川ノ左朝流	十六丁
鳴瀬川ノ右朝流	十七丁
北方海岸ニ在テ直ニ海ニ注ク諸川ノ瀝域	
地勢總括	十八丁
名取川及阿武隈河ノ瀝域ニ附在テ取川ノ北	
クニ者注	

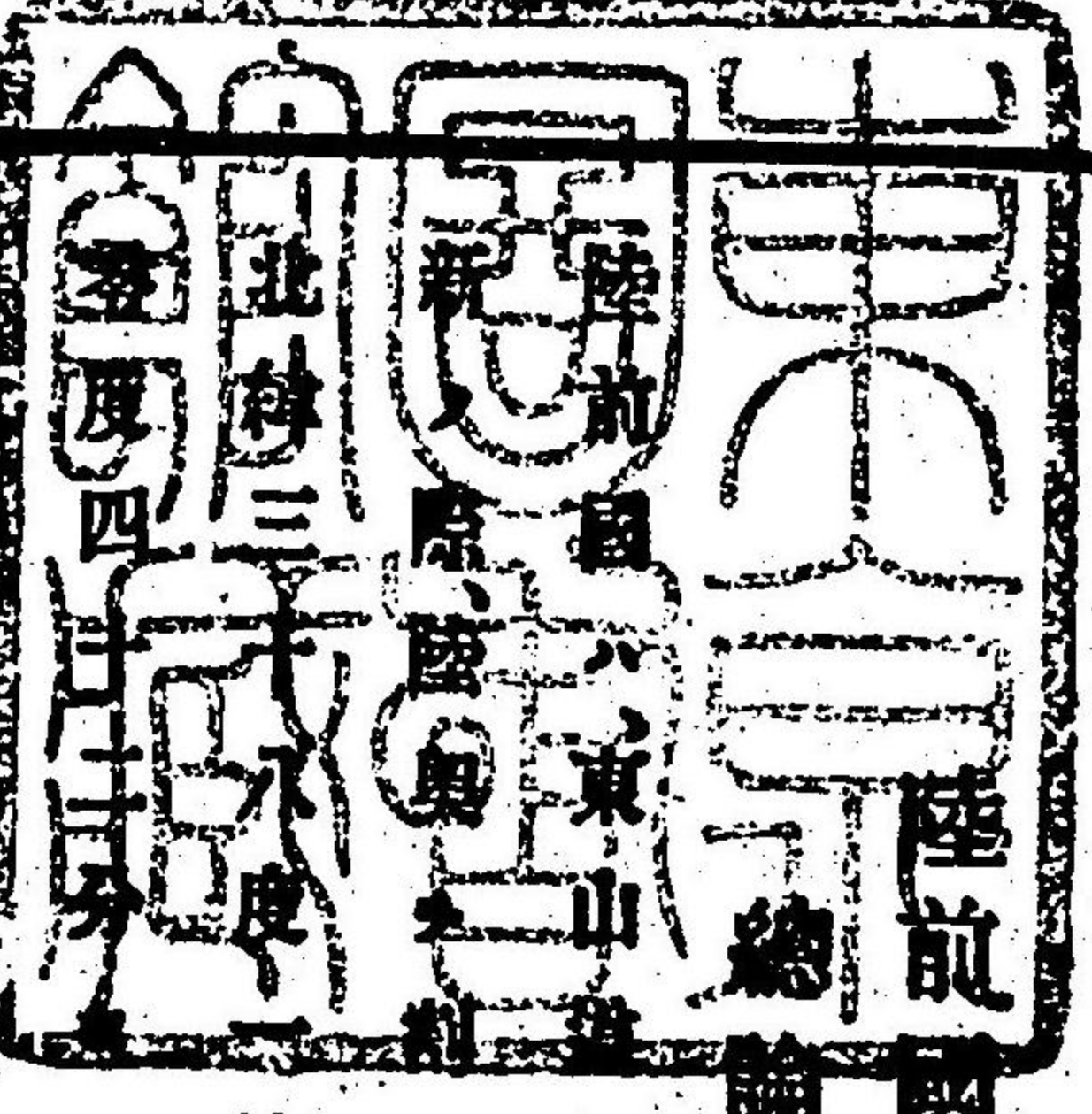
地勢總括	二十丁
名取川ノ水路	二十丁
名取川ノ左朝流	二十丁
名取川ノ右朝流	二十二丁
名取川ノ北ニ在テ直ニ海ニ注ク二川	二十二丁
阿武隈河ノ瀝域	
本河ノ水路	二十三丁
阿武隈河ノ左朝流	二十三丁
交通路	二十四丁
沿革零史	二十七丁





兵要地誌 大日本之軍事之三十一

陸軍教授三木信近纂述



陸前國ハ東山ノ東部ニ在テ、東一面太平洋ニ臨ム、維  
 新ノ際陸軍部ニシテ五國ニ置ケ、陸前其一ニ居ル、其地  
 北緯三十九度一分ニ起テ、三十九度十六分ニ至リ、東經  
 度四十二分ニ起テ、四十二度一分ニ至ル、疆域北ハ陸中・羽後  
 ニ、西ハ羽前ニ、南ハ磐城ニ接シ、東ハ海ニ面ス、廣袤東西  
 凡二十五里、狹處二里、南北凡四十里、狹處十九里、之ヲ割  
 シテ十四郡トシ、別ニ一區ヲ置ク、氣仙郡ハ最北ニシテ  
 海ニ臨ミ、陸中ニ界ス、本吉郡ハ氣仙ノ南ニ接シ、氣仙ト







山論

山脈二條アリ共ニ北ヨリ南ニ亘ル、一ハ本土ノ中央氷  
 界線ニ屬シ、西境ヲ劃ス、即チ主脈ニシテ數多ノ岐脈ヲ  
 支出ス、其最北ナル者ハ陸中境ヲ限リ、最南ナル者ハ磐  
 城境ヲ限ル、一ハ沿海脈ニシテ陸中ヨリ來リ、北方二郡  
 ト陸中トノ境ヲ劃シ、其餘派海ニ入テ牡鹿半島ヲナス、  
 是ヲ以テ本州ノ山脈ヲ綱別シテ四脈トス、主脈・北境岐  
 脈・南境岐脈・沿海脈是ナリ

主脈

主脈ハ陸中・羽後及本州三國ノ交界點ナル栗駒山ニ起  
 リ、嵯峨南走シテ兩羽ヲ劃シ、熊嶽ニ終ル、其間・峻嶽崇峯

栗駒山

連峙ス、其最峻高ナル者ヲ栗駒山高六千尺トス、一ニ駒形山

禿嶽

又駒形峯ト稱ス、盛夏宿雪猶在リ、恰班馬ニ似タリ故ニ  
 名シ、禿嶽高二千尺トス、玉造郡ニ屬ス、往古水晶ヲ出ス、因テ

駒嶽

郡名ヲ玉造ト云フ、其南ニ花瀨山アリ、脈外ニ在リ、相連  
 ナル、礪山ナルヲ以テ、其名世ニ著ハル、翁嶽高二千尺トス

船形山

加美郡ニ屬ス、船形山高三千尺トス、加美・宮城郡界ノ接點

熊嶽

ニ在リ、熊嶽高七千尺トス、羽前・磐城及本州三國ノ交界點

ニ在リ、本州第一ノ高山ナリ、南・磐城ノ不忘嶽ニ連ナル、  
 此山脈ヲ踰フル山徑左ノ如シ

第一 田代長根越ハ、三追川ノ上谷・沼倉栗原郡ヨリ湯本

村羽後郡雄ニ出ツ樵路ニ過キス

第二 冬越ハ、荒雄川ノ上谷・鬼首村玉造郡ヨリ湯岱村



勝羽後雄ニ出ツ、土俗秋田道又羽後街道ト云フ、縣道ナ

第三 中山越ハ、一ニ尿管前峠ト云フ、中山村玉道ヨリ塚

田村上羽前最ニ出ツ、土俗之ヲ北羽前街道ト云フ、縣道

第四 田代西峠ハ、宮崎村加美ヨリ滿澤村上羽前最ニ出

第五 輕井澤峠ハ、輕井澤村加美ヨリ上野畑村羽前北

第六 作並越ハ、仙臺ヨリ廣瀬川ヲ迦リ、作並村宮城ヨ

リ關山村羽前北ニ出ツ、縣道ナリ

第七 二口越ハ、通路二條アリ、因テ名ク、名取川ヲ沂リ

野尻村名取ニ於テ岐分ス、其北ナル者ハ山伏峠ト云

ヒ、山寺村羽前東ニ出ツ、南ナル者ハ清水峠ト云ヒ、高

澤村羽前東ニ出ツ、縣道ナリ、土俗二口街道ト云フ、宮

城縣ハ清水峠ヲ本道トシ、山形縣ハ山伏峠ヲ本道ト

ス

第八 笹谷峠ハ、笹谷村柴田關澤村羽前南ニ出ツ、縣道

コシテ、仙臺ヨリ山形ニ通スル直路トス、土俗之ヲ笹

谷峠ト云フ、關址アリ有也無也ノ關ト云フ、古蹟ナリ

東鑑ニ、大關山ト稱ス、文治五年、大木戸ノ戰敗レ、賊將

國衡、大關山ヲ踰ヘテ出羽ニ走ルト即是ナリ、天正十



カラ兵ヲ督シ、進シテ國境ニ陣シ、五月八日、有屋嶺ニ  
接戦シ、利アラヌシテ止ム、翌年、伊達政宗大崎ヲ伐ツ  
ト聞キ、義光其子義康ヲシテ兵ニ將トシ赴援セシメ、  
篠谷驛ニ次シ、迎戦ント欲ス、政宗到ラス乃兵ヲ山形  
ニ回スト云フ

主脈ヨリ數多ノ岐脈ヲ支出シテ州内ニ蟠結ス、左ニ其  
著大ナル者ヲ北方ヨリ逐次ニ説叙セントス、其一栗駒  
嶽ノ山脚敷派ヲ分テ、栗原郡ノ西北部ヲ覆ヒ、一迫・二迫・  
三迫ノ三水ヲ分隔ス、其一迫・二迫間ニ櫃森花鳥山アリ、  
其二荒雄・一迫ノ二水源間ニ岐出スル者ハ、國見山ニ連  
リ、栗原・玉造ノ郡界ヲ劃シ、其餘派栗原郡ノ南部ニ入テ  
起伏シ、延ヒテ遠田・登米二郡ニ及ヒ、迫・江合二川ノ接近

スル地ニ至テ更ニ隆起シ、笹嶽ト爲テ北上河ヲ挾ミ、沿  
海脈ノ諸山ニ對ス、其三角、鳴山ヨリ分派スル者ハ、二、森・  
戸澤・大野等ノ諸山ニシテ、玉造・加美ノ郡界ニ連峙ス、其  
四船形山一名船嶽ヨリ岐出スル者ハ、蛇嶽・花染山・白髭  
山・三峯山等ニシテ、支分錯雜シ、其脈絡分明ナラス、然レモ  
其大勢ニ就テ論スレハ三條ノ脈ヲ爲ス、一ハ鳴瀬・吉田  
ノ二川間ニ亘リ、一ハ里川・宮城ノ郡界ヲ劃シ、北泉嶽・高  
倉山ヲ領ス、其高倉山ノ東ニ連ナル者ヲ七嶽嶽ト云フ、  
七嶽アリ相連ナルナリ、此脈東走シテ吉田・七北田ノ二  
川間ニ亘リ、其尾端兩派ヲ分ツテ松島灣ヲ抱キ、遂ニ海  
ニ入テ群嶼トナリ灣口ヲ擁ス、一ハ南泉嶽高千尺ノ餘派  
ニシテ、七北田名取ノ二川間ニ亘リ、透遞漸ク低レ、仙臺



市街ノ西北ヨリ東方ニ繞ル、其盡クル所ヲ踰岡ト稱ス、今仙臺鎮臺ノ兵營ヲ置ク、其五廣瀬・名取ノ二水源間ニ岐出スル者ハ、東ニ向ッテ二水間ヲ通走シ、仙臺市街ノ西ニ至リ盡ク、其盡クル處ニ城アリ青葉城ト稱ス、仙臺鎮臺本部ノ在ル處ナリ、其六清水峠ノ南ヨリ岐分スル者ハ、名取・柴田ノ郡界ヲ劃ス、日陰盤神山之ニ屬ス、其北ニ日陽盤神山アリ、名取川ノ上流ヲ挾ミ相對峙ス

北境岐脈

栗駒嶽ヨリ東發スル岐脈ハ、北・陸中トノ國境ヲ劃シ、東走漸ク低レ、遂ニ陸中ニ入り、北上河畔ニ至テ盡ク、此岐脈及國境ヲ踰ヘテ陸中ニ通スル道路數條アリ、左ニ枚舉ス

第一 大門越ハ、三、追川ヲ沂リ、沼倉村郡原ヨリ建古郡袋

村陸中郡井郡西ニ出ツ、樵路ニ過キス

第二 陸羽脇街道ハ、岩崎驛郡原ヨリ磐井驛・古名一、關

陸中郡西ニ通ス、縣道ナリ

第三 陸羽街道ハ、有壁驛郡原ヨリ磐井驛上ニ通ス、國

道六ナリ

第四 陸羽東脇街道ハ、石森村郡登米ヨリ涌津村陸中郡井

ニ通ス、里道ナリ

南境岐脈

南境ヲ限ル岐脈ハ、熊嶽ヨリ支分シ、初、西ヨリ東ニ亘リ、次ヲ折レテ南ニ轉シ、以テ盤城刈田郡ト本州柴田郡トノ境ヲ劃シ、白石川ヲ挾ンテ磐城伊具郡ノ山脈ニ連ナ



リ、又方向ヲ東北ニ轉シ、以テ磐城伊具郡ト本州柴田郡  
トノ境ヲ劃ス、之ヲ踰フル道路數條アリ、左ニ掲ク

第一 青根越ハ、青根村柴田郡ヨリ不忘山ノ東麓ニ出テ、

積鼻村田城郡ニ通ス、險峻ナル樵路ニ遇キス

第二 足立路ハ、足立村柴田郡ヨリ平澤村田城郡ニ出ツ

第三 村田路ハ、村田村柴田郡ヨリ鹽澤村田城郡ニ出ツ

第四 陸羽街道ハ、白石川ノ流來ル凹處ヲ通シ、金ヶ瀬驛

柴田郡ヨリ宮驛ニ至ル、仙臺ヨリ福島ニ通スル本道ニ

シテ、國道線數ナリ

第五 大谷路ハ、白石川ノ右岸ヲ沂リ、大谷村柴田郡ヨリ

小奥村田城郡ニ出ツ、里道ナリ

第六 船岡路ハ、船岡村柴田郡ヨリ神次郎村柴田郡ニ出

ッ

第七 名生路ハ、阿武隈河ノ左岸ニ沿ヒ、下名生村柴田郡

ヨリ小坂村具城郡ニ出ツ、第六第七ノ二路ハ、既ニ山

脈ノ盡クル處ヲ通シ、先途ニ至テ相合シ、角田具城郡伊

ニ達スル者ニシテ、共ニ里道ナリ

沿海脈

沿海脈ハ、南下シテ陸中ヨリ來リ、氣仙郡ノ北境愛染山

ニ於テ二派ニ分レ、一ハ五葉山ニ連ナリ、東シテ氣仙郡

ト陸中南閉伊郡トノ境界ヲ劃シ、其尾端陸中ニ入テ海

ニ挺出ス、之ヲ尾崎ト云フ、海岸極メテ深シ、一ハ西シテ

貞任山・霞露山ヲ領シ、氣仙郡ト陸中西閉伊郡トノ境界

ヲ劃シ、物見山ニ至テ折レテ南ニ轉シ、氣仙郡及本吉郡



ト、陸中江刺郡及東磐井郡トノ境界ヲ劃シ、次テ州内ニ入テ登米・本吉ノ郡界ヲ爲シ、室鏡山・君鼻・鍋越ヲ領ス、其餘派漸シ、東南ニ向ツテ斜伸シ、終ニ海中ニ突出シテ牡鹿半島トナル、此山脈ヲ陸中ニ通スル山徑左ノ如ク

第一 濱街道ハ、唐丹村郡氣仙ヨリ平田村郡中伊南ニ出ツ、  
縣道ナリ

第二 上有住越ハ、上有住村郡氣仙ヨリ細越村郡中伊西ニ出ツ、  
里道ナリ

第三 上石崎ハ、下大股村郡氣仙ヨリ伊手村郡中江ニ出ツ、  
濱街道盛驛ヨリ岐分郡盛川ヲ沂リ日頃市村郡氣仙ヲ經テ此山徑ヲ陸中ニ通スル縣道

ナリ  
第四 大原街道ハ、濱街道今泉驛郡氣仙ヨリ大原村郡東磐中

第五 折壁路ハ、濱街道氣仙沼驛郡本吉ヨリ下折壁村郡中

第六 津谷川路ハ、津谷村郡本吉ヨリ津谷川村郡中東ニ出ツ、  
里道ナリ

第七 藤澤路ハ、馬籠村郡本吉ヨリ藤澤村郡中東ニ出ツ、  
里道ナリ

此山脈一小岐山ヲ西發シ、本州登米郡ト陸中東磐井郡トノ界ヲ劃ス、之ヲ陸中山徑ニ條アリ

第一 狼河原路ハ、狼河原村郡登米ヨリ藤澤村郡中東ニ



出ツ、里道ナリ  
第二 嵯峨立路ハ、嵯峨立村登米ヨリ濱海村陸中郡東ニ  
出ツ、里道ナリ

又此山脈ヨリ支出シテ、州内ニ蟠結スル岐山ヲ枚擧ス、  
其一五葉山ヨリ分派スル者ハ、毛無山ニ連ナリ、更ニ數  
派ヲ分テ海ニ入テ盡ク、其二盛川ト氣仙川トノ間ニ伸  
出スル者ハ、玉山・氷上山ニ連ナリ、其山脚延ヒテ根崎ト  
ナル、其三氣仙・本吉ノ郡界ヲ劃スル者ハ、本脈ニ直交シ  
テ東ニ向ヒ、高畑山ヲ領シ、濱街道ヲ横截ス、之ヲ松坂峠  
ト云フ、是ヨリ以南ハ、本脈海ニ相迫マリ土地狹窄ナル  
ヲ以テ、岐山皆甚短カシ、其最峻高ナル者ヲ田東山トス

水論

田東山

瀧域ノ區劃

河流ノ大ナル者ニアリ、北上河ハ北陸中ヨリ來リ、阿武  
隈河ハ南境ヲ劃シ、自餘ノ諸川ハ此二河ニ朝シ、或ハ直  
ニ海ニ注ク、是ヲ以テ山河自然ノ形勢ニ因リ、本州ヲ大  
別シテ二瀧域トス、其一北上河及ヒ鳴瀬川ノ瀧域、沿海  
脈ヨリ出テ直ニ海ニ入ル、諸川之ニ屬ス、其二名取川及  
阿武隈河ノ瀧域、名取川ノ北ニ在テ直ニ海ニ注ク者之  
ニ屬ス

北上河及鳴瀬川ノ瀧域附沿海脈ノ諸山

ノニ小注ク瀧川

地勢總括

船形山ヨリ支出スル岐脈東走シテ州内ヲ横截シ、本州

日本部

九



ナ二部ニ分ツ、其北部ハ、即北上河及鴨瀨ノ澁域ニシテ、  
 西境ハ、高嶽崇嶺重疊駢列シテ、自ラ一大山脈ヲ爲シ、本  
 土ノ中央水界線ニ屬ス、故ニ流水皆源ヲ此ニ發シ、東流  
 シテ北上河ニ會シ、或ハ直ニ海ニ入ル、東部亦群山綿亘  
 海岸ニ沿フテ南下シ、北上河其西麓ヲ南流ス、其地豊稔  
 ニ宜シク、又多ク牛馬ヲ産ス、海岸ハ山嶽近ク迫ルナリ  
 テ巖崖崎嶇トシテ良港多ク、魚鹽ノ利饒カナリ

北上河ノ水路

北上河ハ、陸中ヨリ來リ、上陸中時登米郡ニ入テ二又  
 川左朝ヲ容レ、登米驛二人口約ノ東ヲ過ク、舟楫ノ便アル  
 ナリテ一方ノ繁邑トス、驛西ニ愛宕山アリ、其南ニ寺池  
 館ノ古壘址アリ、傳云フ古昔萬西晴信之ニ居リ、慶長九

登米驛

柳津驛

年、伊達宗直水澤城陸中ヨリ移リ、子孫世之ニ居レリ  
 ト、次テ登米・本吉ノ郡界ヲ畫シ、柳津驛一口約ノ西ヲ過  
 ク、濱街道ノ驛次ナリ、驛ノ東北ニ沼アリ、綺切沼ト云フ、  
 東西一里十丁南北二十四丁、次テ登米・桃生ノ郡界ヲ畫  
 シ、濱街道ニ沿フテ寺崎驛ヲ過キ、神取驛ノ西ニ至テ迫  
 川ヲ合シ、郡界ヲ去テ桃生郡ニ入リ、東南ニ分流シテ郡  
 中ヲ三截シ、其西ナルヲ深谷ト曰ヒ、其北ナルヲ桃生北  
 方ト呼ビ、其南ナルヲ桃生南方ト稱ス、神取驛ト和瀨驛  
 トノ間ニ津渡アリ、和瀨渡ト云フ、濱街道ノ横過スル處  
 ナリ、和瀨驛ノ南ニ廣瀨沼アリ、東西二十丁南北二十五  
 丁、多ク海老・鯉・鮒・鰻・鮠等ヲ産ス、沼ノ南ニ廣瀨驛アリ、濱  
 街道ノ一驛ニシテ、仙臺ヲ距ル十一里餘、郡役所桃生アリ

和瀨驛  
廣瀨驛  
廣瀨驛







蛇穴崎ノ燈臺

金華山

狹ノ濱

東ニ在テ深ク陸地ニ曲入シ、數多ノ村落之ヲ繞リ、食鹽ヲ製ス、其灣口ニ根岸村千八百約ニアリ、金華山ニ通スル驛路ニ臨ム、其南方ニ斗出スルヲ小竹濱トス、狐崎ト遙カニ相對シテ自ラ桃浦及萩濱ノ入海ヲナス、萩濱ハ近來東京ニ往來スル汽船ノ發着スルヲ以テ其名著ナル、狐崎ト黒崎ノ東ニ大原濱ノ牧場アリ、大原濱外五村ニ亘ル、東西一里餘南北二里、牧馬群ヲ爲ス、其東ニ小淵浦灣アリ、其南ニ田代網地ノ二島アリ、鮎川濱ハ、半島ノ極端ニシテ、其盡頭ヲ黒崎ト曰フ、巖巖斗出ス、鮎川濱ノ海上ニ突立スルヲ金華山トス、往昔ハ之ヲ陸奥山ト稱シ、頂ニ達スル一里十二丁、周回約三里二十九丁、其南岬ヲ蛇穴崎ト曰ヒ、遙ニ下總ノ犬吠岬ト相對ス、岬頭ニ燈臺

山嶺ノ渡

ヲ設置シ、航海者ノ便トナス、燈光不動白色ニシテ照射凡九里ニ達ス、鮎川濱ト金華山トノ間ノ海峽ヲ山嶺ノ渡ト稱シ、長四里餘濶二十丁ニ過キス、潮流甚急ナリ、鮎浦及女川ノ入海ハ、東遠ク江島ニ面シ、寄磯崎ヲ以テ其區域ヲナス、雄勝濱ノ入海ハ、其北ニ在テ桃生郡ニ屬ス、其地石盤・硯材ヲ出スヲ以テ著名ナリ

左朝流

北上河ノ左岸ハ山脈ニ接近セルヲ以テ、左朝流ハ皆甚短小ニシテ溪流ニ過キス、左ニ其名アル者ヲ枚舉ス  
第一 二股川ハ、源ヲ陸中磐井郡ヨリ發シ、西流シテ狼河原驛ノ東ヲ環リ、鱒淵川ヲ併セテ西郡・米谷二村間ニ至リ、北上河ニ注ク、此川平時ハ一條ノ涓流ニ過キスト



雖、霖雨スレハ暴漲シテ兩岸ヲ没スルニ至ル  
第二 羽澤川ハ、源ヲ日根牛村ノ溪間ニ發シテ、北上川  
ニ入ル

第三 中津山川ハ、源ヲ本吉郡界ノ山ニ發シ、縣道東道街  
ニ沿フテ南流シ、中津山村ニ至テ北上河ニ入ル

大田村

第四 飯野川ハ、源ヲ大田村ノ溪間ニ發ス、大田村ニ古  
館址ニアリ、之ヲ館山城ト稱ス、安倍貞任ノ古壘ナリ、一  
ヲ八幡太郎館ト云フ、義家ノ軍セシ地ナリ、其館下ヲ柏  
木原ト云フ、義家ノ貞任ト兵ヲ接ヘシ古戰場ナリ、此川  
飯野川驛ニ至テ退波川ニ入ル

右朝流

右朝流ハ二條アリ、共ニ源ヲ遠ク西境ノ大山脈ヨリ發

スルヲ以テ甚長シ、左ニ之ヲ揭ク

二ノ追川

六幡村

第一 追川ハ、源ヲ栗駒山ノ東溪ニ發シ、東流シテ三、追  
川ト云ヒ、岩崎驛ヲ過ク、陸中一關今ノ驛ニ通スル驛次  
ナリ、次テ澤邊驛ヲ過ク、國道第六ノ驛次ナリ、次テ大國  
村ニ至リ、水路六里ニシテ二、追川ト合ス、二、追川ハ一ニ  
班川ト名ク、源ヲ文字村ノ上石山ニ發シ、東流シテ八幡  
村ニ至リ、陸中ニ通スル驛路ヲ横截ス、村ニ營岡ノ古跡  
アリ、康平五年、將原武則子弟以下萬餘人ヲ以テ出羽ヨ  
リ至リ、頼義三千人ヲ以テ營岡ニ會議スト即此地ナリ、  
次テ宮野村ニ至リ、國道第六ヲ横截シ、圮橋長三十四尺  
ヲ架ス、次テ姥齒村ニ至リ、水路十里ニシテ一、追川ト合  
ス、一、追川ハ、源ヲ栗駒山ノ南溪ニ發シ、初、南流シ、花山村

一ノ追川  
花山村



高清水  
蕪栗沼  
長沼  
伊豆沼

ヲ過ク、花山古城址アリ、安倍貞任ノ壘ナリ、次テ東ニ向  
ヒ上、原ト名クル曠野ヲ過ク、近時此ニ牧場ヲ設置ス、次  
テ興坂驛ノ北ヲ過キ、次テ築館宮野兩驛間ニ於テ園道  
ヲ横截シ、圮橋長三十四間ヲ架ス、其築館驛ハ郡役所郡栗原  
ノ在ル處ナリ、次テ東北ニ向ヒ、水路二十一里餘ニシテ  
二、追川ニ會ス、三水會同スルコト及ンテ追川ト稱シ、東流  
シテ若柳驛千八百ニテ過ク、市街兩岸ニ跨リ頗ル繁華  
ナリ、館址アリ、新山館ト號ス、相傳フ往時源義家次軍ノ  
地ナリト、次テ登米郡北方村ニ來リ、夏川ヲ受ケ佐沼ヲ  
過ク、市街兩岸ニ跨リ稍繁盛ナリ、郡役所登米アリ、驛西  
北方村ニ古壘アリ、往古秀衡ノ家臣之ニ居リ、文明ノ比、  
佐沼某之ニ居リ、天文以來、大崎ノ家臣之ニ居ル、大崎滅

高清水  
蕪栗沼  
長沼  
伊豆沼

亡後、秀吉其故地ヲ木村秀俊ニ與テ、秀俊政ヲ失シ土寇  
蜂起シ、秀俊此壘ニ保シ急テ蒲生氏郷ニ告ク、氏郷來テ  
賊ノ諸壘ヲ陷レ、進ンテ名生城ヲ拔ク、土寇之ヲ聞キ圍  
ヲ解テ去ル、此邊沼澤多ク各地ニ散在ス、其最大ナル者  
ヲ伊豆沼又大沼ト稱ス、東西一里南北十七丁、國內第一  
ノ大沼ナリ、栗原登米二郡ニ跨ル、其水深カラスト羅漁  
網ノ利多シ、東北ニ漏口アリ、其水追川ニ入ル、之ニ亞ク  
者ヲ長沼ト稱ス、東西一里十二丁南北七丁、二水地下相  
通スト云フ、次テ大嶽山ニ支ヘラレテ西ニ濤河シ、蕪栗  
村ニ至テ蕪栗沼ノ餘水ヲ吞ム、蕪栗沼ハ、東西一里十一  
丁南北一里十二丁、栗原登米二郡ニ跨リ、高清水驛ヲ濫  
概シ來ル高清水川ヲ容ル、ナリ、高清水ニ古城アリ、天



正十八年、土寇蜂起シ之ニ據ル、次テ又東南ニ向ヒ善王子沼ノ餘水ヲ受ケ、猪岡短蓋村ニ至リ北上河ニ合ス、水路十二里四丁、一、追川ノ水源ヨリ此ニ至ル、合計三十三里二十一丁、潤三十八間、深平水一丈洪水一丈八尺

第二 江合川ハ、上流ヲ荒雄川ト云フ、源ヲ荒雄嶽ノ東溪ニ發シテ、其北ヨリ西ニ繞リ、鬼首村ヲ過ク、古壘アリ、鬼切邊館ト號ス、安倍頼時ノ據ナリ、永承ノ比、安倍頼時朝命ヲ拒ム、本州ノ大守、藤原登任之ヲ攻メ、大ニ鬼切都ニ戰ヒ、敗績ス、次テ漸ク東ニ向ヒ、鳴子村ニ至テ大谷川ヲ受ク、大谷川尿管前村ヲ開キ、縣道北羽前ヲ通ス、次テ縣道ニ沿テ東流シ、岩出山千七百約三ノ北ヲ過ク、仙臺ヲ距ル十二里餘ニ在リ、陸中羽前二道ノ岐點ヲ占ム、此地

鬼首村

岩出山

釀酒ヲ以テ聞ヘ、頗ル富家多シ、驛西ニ磐手山ノ館址アリ、大碓氏ノ家臣、氏家彈正之ニ居ル、後、天正十九年、豐臣秀次與羽ノ叛黨ヲ誅シ、秀吉ノ命ヲ以テ伊達政宗ヲ徙シ、城ヲ増築セシム、慶長七年、政宗仙臺ニ徙リ、八男宗泰ヲシテ居ラシム、爾來其子孫相繼テ居ルト云フ、驛東名生村ニ城址アリ、大崎氏志田五郎玉造榮原加美、世之ニ居ル、天正十八年、秀吉大崎義隆ノ遲參ヲ責メ、其邑ヲ沒ス、同年十月、土寇蜂起シ、此城ニ據ル、浦生氏鄉急ヲ聞キ、來テ高清水城ニ向フ、途此城ヨリ銃ヲ發ス、氏鄉急攻之ヲ破ル、諸城ノ賊黨之ヲ聞キ悉ク潰散スト云フ、次テ栗原志田ノ郡界ヲ劃シ、荒谷村ニ至リ國道ヲ橫截ス、橋アリ、江合橋長三十八間ト云フ、木橋ナリ、次テ遠田郡ニ入ル、是日

荒谷村



浦谷

リ下流ヲ江合川ト云フ、次テ浦谷驛千六百約五ヲ過ク、其市街川ヲ隔テ浦谷馬場谷地ノ二村ニ跨リ、畑戸稠密、郡役所郡田アリ、古館址アリ、往昔大谷氏ノ家臣、浦谷某ノ居ル所ニシテ、後、天正十九年、伊達安藝・亘理ヨリ移リ、子孫之ヨリ居レリ、驛ノ東南ニ沼アリ、名、沼南東北四十六丁ト云フ、其水分流シテ一ハ江合川ニ注キ、一ハ廣淵沼ニ入ル、次テ暫ク遠田・桃生ノ郡界ヲ劃シ、和淵村ニ至リ北上河ニ合ス、水路約三十里、濶四十五間、深平水八尺、洪水二丈

鳴瀬川ノ水路

鳴瀬川ハ、源ヲ羽前境荒神山ニ發シ、初、暫ク北流シ、國境ノ踏山ヨリ出ツル、澗水ヲ集ム、其一水、經井澤峠、道ヲ開

中新田

ク、次テ東ニ向ヒ、小野田本郷ヲ過キ、高城村ニ至テ、保野川ヲ受ケ、中新田千八百約ニ至テ、田川ヲ容ル、中新田ハ加美郡中最繁華ナル驛市ニシテ、羽前・羽後ニ通スル二道ノ岐點ニ臨ム、古壘アリ、中新田城ト云フ、大碓氏ノ墟ナリ、次テ四寇村一人千口約ニ至リ、荒川ヲ合シ、志田郡ニ入リ、三本木千八百約ニ至テ、國道ヲ横截ス、故ニ一ニ三本木川ト名ク、橋アリ、三本木橋、長四十四間ト云フ、圮橋ナリ、次テ落合村ニ至テ、多田川ヲ併セ、千石村千八百約ニテ過キ、澗流シテ志田・遠田ノ郡界ヲ劃シ、桃生郡ニ入テ、品井沼ノ分流ヲ吞ミ、小野驛ノ南ヲ過ク、市街兩岐シ、東ハ牡鹿郡ニ通シ、北ハ廣淵ニ出ルノ驛路ナリ、次テ野蒜港ニ至リ、二派ニ分レ、運河ノ下流ト共ニ海ニ入ル、水路約二

三本木

小野田



十五里濶七十間、深平水一丈洪水二丈二尺、野洲港ハ三陸第一ノ良港ナリ、明治十一年、築港ノ工ヲ起シ、數歲ヲ經テ成リ、日ニ繁盛ニ向フ、河口ノ南ニ突出スル脚角ヲ長濱ト稱シ、一葦ヲ隔テ宮戸島ト相望ム

鳴瀬川ノ左朝流

左朝流ノ大ナル者ニアリ、左ニ揚ク

第一、田川ハ、源ヲ發シ、東流シテ田代越ノ山徑ヲ開キ、臺原ヲ通過シ、宮崎五ノ口約ヲ過ク、田代越ノ驛市ニシテ、馬ヲ産ス、古壘アリ、天正十八年、土寇亂ヲ作ス、伊達政宗攻テ宮崎城ヲ下シ、他無キヲ謝スト、即是ナリ、次ニ繞取川ヲ合シ、中新田ニ至リ鳴瀬川ニ入ル

第二、多田川ハ、水源ニアリ、一ハ加美郡ヨリ來リ、一ハ

玉造郡ヨリ到リ、古川五ノ口約ヲ過ク、國道ノ驛次ニシテ仙臺ヲ距ル十一里、車馬ノ通運極テ便ナリ、市街、川ノ兩岸ニ楡比シ、郡役所志田玉造ニアリ、驛南、稻葉村ニ古城址アリ、大碓氏ノ臣、新田行遠之ニ居リ、天文五年、行遠居城ヲ以テ畔シ、大碓義貞自ラ兵ニ將トシテ攻メテ之ヲ下ス、後、高清水一迫ノ家族本城ヲ守リ、兵勢尤モ強シ、義直援テ伊達氏ニ乞ヒ、遂ニ之ヲ滅ス、天正中、大碓氏ノ臣、古川彈正之ニ居ル、大碓氏亡ヒ、豐臣秀吉之ヲ木村秀俊ニ與フ、二水石、森村ニ至リ、相合シテ鳴瀬川ニ入ル

鳴瀬川ノ右朝流

右朝流ノ大ナル者ニアリ

第一、保野川ハ、源ヲ船嶽ニ發シテ東北ニ流レ、高城村



一 至リ鳴瀬川ニ入ル  
 第二 荒川ハ、源ヲ黒川郡ノ西隅・前峠ニ發シ、東北ニ流  
 レテ加美郡ニ來リ、曠野ヲ通過ス、西ニ在ルヲ王城寺原  
 ト名ケ、東ニ在ルヲ東原・大原ト名ケ、皆土地乾燥ニシテ  
 田賦トナスヘカラス、獨王城寺原近時開墾ニ就クト雖  
 僅ニ十ノ一ナルノミ、次テ四竈村ニ至リ鳴瀬川ニ入ル  
 第三 吉田川ハ、源ヲ高倉山ニ發シ、吉岡驛千八百一ノ  
 南ヲ過シ、吉岡ハ郡役所加美郡管ス川ニノ在ル處ナリ、天正  
 十八年、土寇起リ浦生氏郷伊達政宗ヲ促シ師ニ會セシ  
 ヲ、政宗己ヲ得テ出テ、吉岡ニ陣スト即此地ナリ、次テ  
 下草村ニ至テ右ニ下草川ヲ受ケ、次テ檜和田村ニ至テ  
 左ニ善川ヲ容レ、次テ大平村ニ至テ右ニ西川ヲ併セ、精

品井沼  
 川村ニ至テ品井沼東北一里十五丁ニ注シ、品井沼ハ、志  
 田郡ノ東南隅ニ在リテ、宮城・黒川二郡ニ接ス、瀧口ニア  
 リ一ハ小川ト稱ス、東流シテ鳴瀬川ニ朝シ、一ハ高城川  
 ト稱ス、元祿七年、之ヲ鑿テ沼ノ惡水ヲ瀆スニ供ス、南流  
 シテ高城驛千八百一ノ南ニ至リ、松島灣ニ入ル、灣中數  
 百ノ小嶼碁布シ、風光極テ明媚ナリ、安藝ノ嚴島・丹後ノ  
 天橋立ヲ併セテ、之ヲ日本三景ト稱ス、灣口ニ稍大ナル  
 島五アリ、連接一帯長堤ノ如シ、其寒風フク、澤島ニ寒風澤港  
 アリ、桂島ニ石濱港アリ、深穩共ニ發舟最便ナリ  
 北方海岸ニ在テ直ニ海ニ注シ、諸川ノ匯

地勢總括







ル未詳 氣仙沼ハ、又鼎浦ト名ケ、本吉郡ノ北隅ニ在ル長

港ニシテ、船舶常ニ絶ヘス、市街稍繁華ナリ

第五 津谷川亦陸中磐井郡ヨリ來リ、東西ニ流レテ津

谷川越ヲ開キ、御嶽村ノ溪澗ヨリ出ツル山田川ト相合

シテ海ニ入ル

第六 志津川ハ、源ヲ入谷村ノ溪澗ヨリ發シ、本吉村・志

津川驛ノ南ニ至テ海ニ入ル、志津川ハ、濱街道ノ驛次ニ

シテ、郡役所本吉アリ、驛ノ南ニ本吉城址アリ、往昔之ヲ

旭館ト稱ス、傳云フ上右藤原秀衡ノ第四子・本吉四郎高

衡之ニ居リ、中世葛西ノ臣・千葉大膳ノ居ル處ト

名取川及阿武隈河ノ瀧域附名取川ノ北

注者

津川

地勢總括

此瀧域ハ州南ノ一部ニシテ、宮城・名取・柴田ノ三郡ヲ領

シ、西境ハ大山脈綿亘シテ、數多ノ派脈ヲ域内ニ支出シ、

東部ハ平行河水疏通、田畝遠ク相連リ、沃壤ヲ以テ稱セ

ラル、其海岸ハ松島灣ニ臨ム、一部ハ巖崖ニシテ餘ハ皆

沙濱ナリ

名取川ノ水路

名取川ハ、水源ニアリ、羽前ニ通スル二山徑ヲ開ク、共ニ

險路ナリ、之ヲ二口越ト云フ、一ハ清水峠ニ發シ、日陽磐

神・日陰磐神ノ二山間ヲ流ル、一ハ山伏峠ニ發シ、二水相

合シ、縣道ニ沿テ東流シ、赤石驛ニ至リ刈田郡ヨリ來ル

碁石川ヲ容レ、縣道ヲ横截ス、橋アリ赤石橋長九間ト云



太白山

中田

フ、圮橋ナリ、次テ太白山ノ麓ヲ過ル、太白山一ニ生出森ト曰ヒ、郷俗又之ヲ烏兔森ト稱ス、其嶺甚高カラスト雖、特立依ラサルヲ以テ近海漁舟ノ目標タリ、次テ中田驛千人口約一ニ至リ國道ヲ横截ス、橋アリ名取橋長五十間者北ナル者ハ三三ト云フ、木橋ナリ、次テ袋原村ニ至リ廣瀨川ヲ受ケ、兩上濱二人口約ニ至リ海ニ朝ス、水路約十二里二十丁濶百二十間、深平水五尺洪水二丈

名取川ノ左朝流

名取川ノ左朝流ハ大ナル者一流アルノミ、之ヲ廣瀨川ト名ク、源ヲ作並越ニ發シ、東流シテ山徑ヲ開ク、仙臺ヨリ此川ニ沂リ、羽前山形ニ達スル縣道ナリ、次テ作並村ニ至リ、名取郡ノ山中ヨリ來ル溪水ヲ併セ、熊根村ヲ過

キテ船形山ヨリ發スル一川ヲ受ケ、尙東流シテ仙臺市中ヲ貫ク

仙臺ハ、宮城縣廳城ノ仙臺郡ヲ除クノ外、本州一國及縣ノ在ル處ニシテ、戶數一萬二千餘、人口五萬四千四百餘、市街繁華、邸宅其前後ニ隣次シ、區ヲ置テ之ヲ治ム、州内第一ノ都會ナリ、地勢廣瀨川西ヨリ南ニ環流シ、北ニ荒卷ノ林樹ヲ負ヒ、東一面宮城野ニ相連ナル、市坊方約一里、鎮臺アリ、第二軍管ヲ統率ス、其他宮城控訴裁判所、仙臺始審裁判所、師範學校、第二高等中學校、尋常中學校、陸軍病院、監獄署、警察本署、區役所、電信分局、公園等、區内各處ニ散在ス、公園ハ廣瀨川ニ臨ム、中央ニ櫻岡神社アリ、大町ヨリ鎮臺ニ至ル中間、廣瀨川ニ木橋ヲ架シ、大橋



長六十五ト云フ、鉄柱ヲ用ヒ結構壯堅ナリ、城アリ青葉  
 城ト云フ、往昔島津陸奥守、始茂崎城ニ居リ、後此地ニ館  
 ス、文治中、結城朝光此地ニ居リ、其後國分館登守之ニ居  
 リ、慶長七年、伊達政宗岩出山ヨリ移リ、本城ヲ築キ仙臺  
 ト號シ、子孫世之ニ治シ、以テ明治維新ニ至ル、城池依然  
 今鎮臺ヲ置シ、兵營ハ別ニ踰岡ニ在リ、古來陸奥今五分  
 州トノ國府ヲ此地方ニ置キ、全州ヲ鎮スルノ要地トス、  
 抑北上阿武隈ノ二大凹谷、南北ニ在テ相對シ、此地畧其  
 中央ヲ占メ、其二凹谷ヲ控制スヘキヲ以テナリ  
 廣瀬川仙臺市街ヲ出テントシ國道ヲ横截ス、橋アリ廣  
 瀬橋長六十四間ト云フ、木橋ナリ、以テ長町驛千人六百約一ニ  
 渡ル、長町驛ハ東京道ノ驛市ニシテ、郡役所名取ノ在ル

長町驛

處ナリ、次テ袋原村ニ至リ名取川ニ合ス、水路約十二里  
 二十一丁濶七十間、深平水五尺洪水二丈

名取川ノ右朝流

右朝流亦一水アルノミ、之ヲ碁石川ト云フ、源ヲ笹谷峠  
 ニ發シ、羽前街道ヲ開シ、笹谷村ヲ過キ、野上原ノ北方ヲ  
 東流シ、北川ヲ併セ、次テ青根ヨリ發スル前川ヲ合シ碁  
 石驛ニ至リ折レテ北ニ向ヒ、名取郡ニ入リ名取川ニ會  
 ス

名取川ノ北ニ在テ直ニ海ニ注シ二川

其一 七北田川ハ、一ニ冠川ト名ケ、源ヲ泉嶽ニ發シ、東  
 流シテ七北田驛千人約一ニ至リ、國道ヲ横截ス、橋アリ  
 七北田橋長四十五間ト云フ、圮橋ナリ、次テ岩切村ニ至リ

七北田驛

碁石峠



岩切村

長命山

原ノ町

縣道石道ヲ横截ス橋アリ今市橋長三十四間ト云フ圮橋ナリ岩切村ハ鹽竈街道ノ岐路ニ在リ國府ノ址アリ高森ト云フ文治五年源賴朝泰衡ヲ誅シ葛西清重ヲ奥州ノ留守ニ補シ高森ニ居ラシムト仙及陸中ノ縣生本吉氣江刺八郡即是ナリ北ニ長命城址アリ郷俗長命山ト云フ山上他樹ナシ青樅繁生直立梁戟ヲ列スルカ如シ東鑑ニ所謂國府中山物見岡是ナリ文治ノ役ニ泰衡國府中山物見岡ニ在ルヲ聞キ賴朝小山朝光等ヲシテ之ヲ圍マシム泰衡先遁ル朝光擊テ其殘兵ヲ殲ス次テ田子村ニ至リ荒卷ノ林登ヨリ發スル一小流ヲ受ク此小流原ノ町千八百三ノ北ヲ過ク郡役所宮城ノ在ル處ナリ次テ浦生村千八百一ニ至リ海ニ入ル水路八里濶四十

市川村

間深平水四尺洪水一丈五尺河水海ニ入ル前ニ二派ヲ左右ニ分ツ其南派ハ海岸ニ平行シ名取川ノ河口ナル瀧ニ注シ北派ハ北上シ松島灣ニ入ル  
其二 市川ハ源ニアリ市川村ニ至リ相會シテ一水トナル市川村ハ多賀城址ノ在ル處ナリ本城ハ神龜元年、按察使兼鎮守府將軍大野朝臣東人ノ置ル所ニシテ其後天平寶字六年藤原惠美朝臣猶修造シ門碑ヲ建ツ之ヲ壺ノ碑ト稱シ今猶存シテ其名世ニ著ハル下流鹽竈千八百三ニ至リ松島灣ニ入ル之ヲ千賀浦ト云フ小港ナリ近頃電信分局ヲ置ク

阿武隈河ノ濶域  
本河ノ水路



岩沼

阿武隈河ノ流域ニ屬スル地ハ。南境ノ一小區ニ過キス、  
而シテ其本河ハ磐城ヨリ來リ、左朝流。白石川ト相會シ、  
折レテ北ニ向ヒ、國ノ南境ヲ劃シ、岩沼驛千七百約四ノ南  
ニ至リ國道十五ヲ横截ス、津波アリ藤場渡ト云フ、岩沼  
ハ陸前街道。濱街道交會點ニ在リテ、河ヲ距ル遠カラス、  
東南境ノ要地トス、古城アリ伊達氏其臣。岩沼主膳ヲ置  
テ守ラシムト云フ、驛東ニ至リ東海ニ流注ス、水源ヨリ  
河口ニ至ル水路約五十七里濶二百間上流ハ磐城岩代  
ニ詳カニス  
河口ニ溝渠ヲ穿テ、海岸ニ平行シ、其水ヲ引キ名取川口  
ノ鵜ニ通シ、沿海ノ地ヲ灌溉シ兼テ運輸ニ便ス

阿武隈河ノ左朝流

左朝流ハ白石川ノ一水アルノミ、此川ハ刈田郡城ヨリ

大河原

船岡村

來リ、柴田郡ノ東境ヲ流レ、國道ニ沿テ東北ニ向ヒ、大河  
原驛二千口約ノ東ヲ過シ、國道ノ驛次ニシテ市街稍繁華、  
郡役所刈田郡及管治スアリ、次テ荒川ヲ受ケ、船岡村口  
ニ約一千ト船泊驛トノ間ヲ過シ、津波アリ相往來ス、船岡  
村ニ古城址アリ、頗要害ニ據ル、鎌倉府ノ時、柴田次郎之  
ニ居ル、將軍頼家次郎ヲ招ク至ラス、正治三年宮四郎ヲ  
シテ此城ヲ攻メシム、次テ槻木驛ノ南ニ至リ阿武隈河  
ニ會ス、驛ニ津波アリ白輪渡ト云フ、角田街道ノ由ル處  
ナリ、水源ヨリ此ニ至ル、水路約十八里濶八十間、深、平水  
六尺洪水一丈六尺ニ上ル詳カニス

交通路

國道六

兵要地誌

日本部

陸前國志

二十四















十四間

槻木 五里 二十七丁

角田 梁川街道 伊梁田郡 角田ノ木造ノ磐城國

石巻 三十七町

石巻北街道 郡 波合 一里 二十七丁 三十間

北羽前街道 郡 古川 郡 界 田 山形 邊

古川 五里 十六町

岩出山 二里 五町 下宮 七丁 八町 鍛冶

屋澤 十一里 十二丁 尿前 五里 五町 丁 合 十一里 十一丁 四間

陸前國ハ本陸奥ニ屬シ、養老中ノ割テ磐城・磐前二州

沿革零史

十量キ、後曾併セテ陸奥ニ入リ、國府ヲ宮城郡ニ置ク、府  
ノ切村ニ在リ、高森ト云フ、明治元年十二月、チ分、  
五國トス、本州其一タリ、永承中、州人安倍頼時叛シ、衣川  
井中、據ル、源頼義州守ヲ以テ鎮守府將軍ヲ兼テ、王  
命ヲ以テ之ヲ討シ、數年ニシテ賊盡ク平ラケ、清原武則  
從テ功アリ、因テ鎮守府將軍ニ拜シ、子武貞ニ傳フ、寛治  
中、武貞ノ子家衡、其叔父武衡ト俱ニ亂ヲ作ス、頼義ノ子  
義家、父ノ任ヲ襲キ、伐テ之レテ平ラケ、家衡ノ異父兄藤  
原清衡ヲシテ州守ラシム、清衡陸奥・出羽ノ押領使ト  
ナリ、平泉、陸中、磐前ニ居リ、遂ニ二州ヲ攘取ス、清衡ノ孫秀  
衡州守ニ任シ、盤踞益堅シ、子泰衡嗣シ、文治五年、源頼朝  
泰衡ヲ誅シ、葛西清重ヲ留守トシ、高森城切村ニ置ク、



後本吉、氣郡日和山城中移、赤子孫、江刺八郡、米橋ニ置キ、  
 二州ヲ綏撫、諸將ヲ二州ニ分封ス、建武中興、源顯家州  
 守ニ任、鎮守府大將軍ヲ兼テ、義長親王ヲ奉、本州  
 及出羽ヲ兼知ス、親王尊テ大守ニ任、初、國府ニ居、後、  
 鹽山城岩代伊ニ移ル、足利尊氏ノ反スル族弟家兼ヲ以  
 テ探題トナシ、大崎城大崎村ニ居ラシメ、栗原加美、黒川  
 五郡ト稱ス家兼ノ從子斯波家長ヲ州守トナシ、高水城  
 波中業ニ居ラシム、二人皆官軍ニ抗シテ敗死ス、俄ニシ  
 テ顯家西上シテ戰死シ、州族多ク尊氏ニ應ス、既ニシテ  
 伊達氏岩代ニ起リ漸ク強大、文治ノ役ニ中村朝宗功ナ  
 氏領ト稱ス應永中、政宗朝孫八、柴田宮城名取、黒川ノ四郡  
 ヲ併セ、天文中、政宗六世ノ孫、晴宗、米澤羽前ニ移リ兵

勢益熾ナリ、將軍義晴以テ探題トナス、是時ニ方テ大崎  
 及近國ノ諸氏競起リ互ニ相呑噬ス、天正十八年、豐臣氏  
 東征シ、大崎、高西ノ地ヲ没シ、之ヲ木村秀俊ニ賜フ、秀俊  
 政ヲ失シ、土寇蜂起ス、秀吉其封ヲ奪ヒ之ヲ伊達政宗ニ  
 賜ヒ、岩手山城玉造ニ居ラシム、關原役後、政宗治ヲ仙臺  
 城ニ定メ、子孫世々之ニ居リ、明治維新、慶邦會津ニ黨ス、  
 王師北征、封境ニ臨ミ、慶邦城ヲ致シ降ル、朝廷其封ヲ削  
 リ、伊達宗基ヲシテ襲カシム、尋テ石巻、登米二縣ヲ置キ、  
 又石巻ヲ登米ニ併セ、既ニシテ皆廢シテ仙臺一、關二縣  
 ヲ置キ、又改稱シテ宮城水澤ト云フ、後合シテ宮城一縣  
 トス、而シテ軍管ハ第二軍管仙臺、鎮臺ニ隸シ、仙臺區及  
 名取、柴田二郡ハ第三師管ニ屬シ、他十二郡ハ第四師管



二  
屬  
六、

...

...









明治二十一年八月



版權登錄

陸軍士官學校版權所有  
明治廿一年十月二十五日印刷 (定價金拾圓)  
同 年十一月二日出版

東京京橋區山下町六番地  
東京府士族

發行者 宇津木信夫

印刷者 同 區同 町七番地  
內外兵事新聞局

右 同人

發行所 東京 內外兵事新聞局

